



D.I. 質問箱



今回は学術 D.I.
はまかわ
課の濱川がお答
えいたします。

Q33

昨年、海外で狂犬病に感染し、国内で発症した男性の報道がありましたが、狂犬病の予防について教えてください。

A33

「ご質問ありがとうございます。」

ここ近年、日本では狂犬病の感染はないため、通常では狂犬病の予防措置は必要ありません。しかし、海外、特に東南アジアで狂犬病が疑われるイヌ、ネコおよび野生動物にかまれたり、ひっかかれたりした場合、まず傷口を石鹸と水でよく洗い流し、速やかに医療機関を受診して下さい。そして狂犬病ワクチンと抗狂犬病ガンマグロブリンを投与する処置を行ってください。狂犬病は一旦発症すれば効果的な治療法はないといわれています。そのため、できるだけ早期に、狂犬病ワクチンと抗狂犬病ガンマグロブリンを投与する必要があります。

感染から発症までの潜伏期間は、咬まれた部位等によって様々ですが、一般的には1～2ヶ月といわれています。

なお、狂犬病ワクチン接種は広島検疫所などで実施されています。

お問合せ：学術データインフォメーション（D.I.）まで

0120-14-8734（フリーダイヤル） / 082-247-4325（ダイヤルイン）



きやうぽーる

私の人生には、何人かのお師匠様がいます。そのうちのひとりが葉加瀬太郎氏です。2007年1月16日の朝日新聞に、『彼は“おたく”の理想型』と書かれていました。4歳でバイオリンを始めた自他ともに認めるクラシックおたくは、東京芸大へ進学し、バイオリニストとして活動しています。彼は多才で、作曲だけでなく描画もし、彼のコンサートで販売されているグッズも彼の作品です。彼は、音楽に囲まれた今の生活を「めちゃめちゃ楽しい」と言っているのけます。そんな彼のコンサートに私はハマってしまいました。私も今の臨床検査技師の仕事が楽しいのですが、管理職になってからは、泣き笑いの連続です。（苦笑） それでも、好きな仕事をしてお給料をもらえることは幸せだと感じられる今日この頃です。 後藤 知佳（検査一科科长補佐）

広報委員

松本 道雄 / 藤本 誠 / 伊丸 直樹 / 中村 賢作 / 渡川 美弥子 / 初岡 博

